



本物の音楽にふれて

僕はバンドを組んでいます。そのきっかけは、とあるライブハウスに行ったことでした。友達に誘われて見にいきました。ライブハウスに一度も行ったことが

なかったもので、とても刺激的で感動しました。ライブハウスなんて薄暗くて怖い人がいっぱいいると勝手に思い込んでいました。でも、実際に入ってみると皆ノリのいい人ばかり。ステージ上ではバンドが演奏し、観客席にはそれに合わせてリズムをとっている人や一緒に歌っている人がいる。その空間は、僕にとつてとても居心地が良いものでした。それから何度かライブを見てうちにギターの音色や演出に引



長生町
走川 秀司さん

かれ、「自分もあのステージの上で光を浴びながら輝きたい」と思うようになりました。そこで、バンド活動をしている友達に「バンドメンバーに入れてくれないか」と言ったところ、快諾してくれました。それからはギターの練習を重ね、周りの人の力も借りながらなんとかかやつてこられています。

僕は、今のバンドメンバーと共に音楽の力で阿南市を盛り上げて皆に笑顔届けられるようになります。目標を達成するため、諦めずにとがなくてもやり抜きとおし、スターになりたいと思います。これから阿南市が「光のまち」と「音楽のまち」と呼ばれるように、そしてバンドマンが増えるようにメンバーと力を合わせて頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

次は、横見町の岐 篤史さんにお願ひします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

互選賞

三澤 和子
美しく装ふことなど無き今をぬり絵に込める
デーケアの余生

互選賞

黒部 君代
陽と風がわが背を撫でて一刻は温しと思う早
春の畑

入選

川口 節子
三次元の画像をうつすMRIへ死者のごとく
に投入さるる

入選

小畑 定弘
人生に続編などはなきものか恋に仕事に燃え
てた頃の

入選

五島 秀子
海月らは前世も来生も知らずしてLEDにし
やぼん玉めく

入選

森 マスミ
ラプンツェル ソフィア アナ雪 プリキユ
アとついていけない四歳の孫に

入選

臣永 悦子
春耕のエンジン音に誘われて小さき鎌もて畑
を耕す

入選

松島 博子
ハードルの低きを選び飛んできた六十路なか
ばの背に花降る

俳句

阿南市俳句連合会選

荒谷 隆文
空梅雨やあしたゆふべに空仰ぐ

鎌矢美代女
梅漬ける次代へつなぐメモ残す

山野 賢治
老早し朝な夕なにほととぎす

田中 織女
老鷺に筆を止めし朝写経

富永 恵女
万緑や六角堂の明り窓

庄野 早苗
体ごと撓うやさおの鮎が跳ぶ

大平 夏子
上を向くカーブミラーに夏の雲

田中 栄子
薫風や豪華客船接岸す

小谷 史井
竹皮を脱ぐ空海のへんろ道

山川 喜美
入梅と言えど畑より砂けむり

田上 鶴子
平和ボケ老いの懐狙われる

武田 敏子
追う程に逃げ足早い福の神

鈴木レイ子
病む足へロボット君のスタンバイ

酒本 耕造
赤い糸手繰りよせてる老いの春

高木 旬笑
もう野性失せた夫の放し飼ひ

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選